予算決算常任委員会 文教産業分科会記録

1. 開催日時 令和2年3月10日（火） 午前9時30分
2. 場 所 市議会第3委員会室
3. 出席委員 重村委員長、重廣副委員長、大草委員、長尾委員、
南野委員、有田委員、早川委員
4. 委員外出席議員 武田議長
5. 欠席委員 田村委員
6. 執行部出席者 別紙のとおり
7. 議会事務局職員 永田局長、山下次長
8. 協議事項
3月定例会本会議（2月28日）から付託された事件（議案1件）
9. 傍聴者 なし

会議の概要

- ・ 開会 午前9時30分 閉会 午前11時25分
- ・ 審議の経過及び結果
(別紙のとおり)

上記のとおり相違ありません。

令和2年3月10日

予算決算常任委員長

重 村 法 弘

記 録 調 整 者

山 下 賢 三

重村委員長 皆さんおはようございます。ただ今から、3月5日に引き続き、予算決算常任委員会文教産業分科会を開会します。最初に、委員並びに執行部の皆様に申し上げます。分科会において発言しようとする場合は、挙手をして「委員長」と呼び、分科会委員長の許可を得てから発言していただくよう、お願いします。委員におかれましては関連する質疑がある場合は「委員長・関連」と呼び、続けて行われますよう、お願いします。また、質疑については、できるだけ簡潔に行われますよう、お願いします。執行部答弁につきましても、同様をお願いします。円滑な進行に努めてまいりますので、ご協力をよろしくお願いします。それでは、議案第8号「令和2年度 長門市一般会計予算」を議題とします。審査は、別紙一覧表に沿って、課ごとに行います。はじめに、都市建設課 所管について、審査を行います。執行部の補足説明がありましたらお願いします。

早川建設部長 それでは都市建設課所管事業の補足説明をいたします。まず、第7款「商工費」、2項「観光費」の長門湯本温泉観光まちづくり事業関連につきましても、前年度ハード整備が完了したことから、市道改良舗装工事費6億2,700万円が皆減となっております。次に、第8款「土木費」の1項「土木管理費」から5項「都市計画費」までになりますが、予算書では234ページから253ページ、当初予算説明資料は、25ページから27ページになります。予算額は8億4,498万8,000円となり、対前年度と比較して、率にして5.1%、4,098万7,000円の増額となっております。それでは、主な事業につきまして、「当初予算説明資料」の25ページから27ページで、ご説明申し上げたいと思います。まず、「道路橋梁新設改良費」では、「自然災害防止事業」が1事業、「辺地対策事業」が1事業、「過疎対策事業」が6事業、「社会資本整備総合交付金事業」が5事業、そして、単独の「市道改良事業」を4事業としており、主要な道路から生活道路まで安心・安全な道路環境の整備に努めてまいります。中でも、八幡線道路改良事業につきましては、事業費を増額し、令和2年度の事業完了に向けて進めてまいります。次に、大内山上畑下線道路改良事業につきましても、事業費を増額し、令和4年度の完成予定を1年前倒し、令和3年度の事業完了に向けて進めてまいります。次に、新規事業となります「通学路安全対策事業」につきましては、園児の移動経路や児童・生徒の通学路において、区画線や、薄層カラー舗装の設置により、交通安全の確保に向けた道路環境の改善に努めてまいります。最後になりますが、「当初予算説明資料」の27ページになります。河川改良費の「防災・減災対策河川整備事業」につきましては、国の緊急浚渫推進事業を活用し、緊急性の高いものから、河川内の土砂を取り除き、洪

水時の水位低下を図る河川浚渫事業により、防災・減災対策に取り組んでまいります。なお、「当初予算説明資料」26ページの「道路橋梁新設改良費・過疎対策事業」の白瀉大窪線道路改良事業につきましては、新規事業である旨の記載がございませんでしたので、訂正してお詫び申し上げます。

重村委員長 以上で、補足説明は終わりましたので、これより質疑を行います。ご質疑はありませんか。

重廣委員 それでは予算書の243ページ、説明資料の25ページになります。自然災害防止事業ということで、津黄線の落石防止事業ですね。これにつきまして伺いたいと思います。これは全体計画が元年から5年までというふうの下にうたってありますね。昨年同じようなことを聞きました。昨年測量設計として150万円出ております。昨年。「1,500万円」と呼ぶ者あり）1,500万円でしたかね。すいません。これが出ていましたけど、今度また詳細設計業務というふうはこのたびはなっているんですが、その違いについて説明願いたいと思います。

中尾都市建設課技術補佐 新年度の業務委託につきましては、工法について今年度発注の業務により、3案が示されましたので、各案の経済性、施工性、安定性、維持管理等を比較したうえで最終的な工法を決定する業務としております。

重廣委員 5年計画で先の2年が計画だけで済むということがあるんですか。私は今年から業務が発注されて施工されるんじゃないかなというふうに思っておったんですが、5年のうち2年間は測量設計、詳細設計というふうになっていいますが、ほかの工事もこういうことになりますか。伺いたいと思います。

早川建設部長 この事業につきましては、のり面対策ということで、かなり特殊性が高い事業であります。そういったことから、まず1年かけて工法検討を行いました。その3案の中で経済性、そして危険性、そういったことを考えて一つの工法に今年度決定して、それを決定を受けて来年度その事業についての詳細設計を行うというところでございます。だから通常の道路改良事業等とはちょっと違うところでございます。

重廣委員 ということは残り3年で全て工事は終わるというふうに判断してもよろしいですか。ここは私も知っておりますが、毎年毎年雨が降る度に石が落ちます。何らかの処置はされるんですけど、かなり昔からそういうふうになっております。3年で確実に工事が終わるんですね。

早川建設部長 それは重廣委員もご存知のとおり、予算がついてからになるかと思えます。そのへんはご容赦いただきたいと思えます。

長尾委員 説明資料の26ページですけど、過疎対策事業の関係で、本郷畑線の道路改良事業、新規になっております。それでLが400mということで、この市道は3,000mから上くらいあるんですけど、位置的にはどこになりますかね。

波多野都市建設課長 市道本郷畑線の位置でございますけども、ただいま県営の圃場整備事業が向津具小学校まわりで行われております。厳密な位置としましては向津具小学校のグラウンドから上の部分に、圃場整備と合わせて用地買収も圃場整備上の創設換地によって用地を取り入れまして、通常の用地買収と異なった、もっと安価な単価で用地を広げまして向津具小学生の通学路としての整備も合わせて行う予定であります。

長尾委員 そしたら圃場整備の枠の範囲内ということによろしいんですかね。そしてもう一点が谷河内までは行かんということですね。堤までは。

波多野都市建設課長 圃場整備に合わせて地元の方から要望をいただいております。その中では向津具小学校のグラウンドから谷河内ため池の手前の集落まで、こちらを予定しております。

重廣委員 ただ今の過疎対策事業のところでございますが説明書の 26 ページ、大内山上畑下線というんですか、この道路のことについて伺いたいと思います。これは平成 19 年から先ほど補足説明もありましたように令和 4 年から令和 3 年に終わるように 1 年ほど縮めたと申しましょうか、そういう説明がございましたが、今年が用地取得なんですよ。用地買収というふうに書いてありますが、1 年間縮めるということで早急に工事にかからなければならない。時間的には間に合わないのではないかと思います。この中で、用地取得の見込み、例えば 1 人でも反対される方があれば 1 年 2 年とまたずれ込む恐れがありますけど、その見込について伺いたいと思います。

波多野都市建設課長 令和 2 年度においては、地権者が 2 名いらっしゃいます。具体的な数字で用地交渉等はまだ行っておりませんが、地元要望としてその中に関係者がございますので、概ねの了解は得ているものと思っております。

重廣委員 当初、工事に入る前に地元要望がありまして、みなさんよろしいですよと承諾済みかもしれませんが、14 年もかかるとなかなか難しいところがございます。せめて 5 年くらいじゃないかなと思っておりますけども、同意された方もこの世におられない方もおられるかもしれません。変な話ですね。14 年というのは長すぎます。便利な道になるのは分かるんですけども、いつもあそこを通るたびに工事しよるからこっちまわろうかとなるんですよ。それは市民も慣れてきますので、確実に令和 3 年度、来年度中には完成させていただきたい。これは要望でございます。お願いします。

重廣委員 それでは今の 26 ページのすぐ下でございます。社会資本整備総合交付金事業というのがございますが、この橋梁等点検業務です。490 近く橋がありまして、点検、診断というのはもう 100% 進んでいる、終わっているというふうにごいしました。この点検業務、また 57 橋とありますよね。この 57 橋について具体的に説明願いたいと思います。

波多野都市建設課長 この法定点検でございますけども、5年に1度、すべての橋梁を点検する義務がございます。令和2年度においては57橋及び職員による直営点検が29橋、委託に発注いたします57橋のうち旧長門地区が38橋、旧三隅地区が3橋、日置地区が8橋、油谷地区が8橋、合計の57橋について点検をするものです。

重廣委員 今5年に1度というふうなことを言われましたが、また来年も何橋かあるという認識でよろしいですか。

波多野都市建設課長 令和3年度においては89橋が予定されています。委託に出す橋梁490橋のうち329橋を委託に出して直営による点検が161橋、毎年毎年点検が、橋は違いますけど行われていく予定です。

重廣委員 毎年点検だけでこの金額というのはちょっともったいないと言いますか、そういうふうを感じるわけですね。まだ1カ所ずつでも修繕補修をしていった方がいいんじゃないかと思うんですけど、そのあたりの見解をお尋ねします。

早川建設部長 この橋梁点検については先ほども申しましたように、平成26年道路法が改正されて、点検が義務化されたというところでございます。委員がおっしゃるように毎年2,500万円費用をかけてということもあって、そういった要望というのは各市町のほうから国の方へも上げております。国の方についてはその点検について簡素化するとかそういった方法でコストを下げるといようなことについて現在検討されているところでございまして、そういった国の動向を見ながらそれについては対応してまいりたいと考えております。

上田委員 今の発言をお聞きしますと、このペースでいけば5年に1回ということであればずっと点検業務というのはエンドレスじゃないですけど、ずっと続くという認識でよろしいんですか。

早川建設部長 そのとおりになります。

大草委員 説明資料の27ページの防災・減災対策河川整備事業ですけども、令和2年から令和6年まで1kmにわたってやるんですけども、順番というのはいま決まっているんですか。

波多野都市建設課長 説明資料の27ページにもございますように、この度昨年度までの一般財源から全て市債1,200万円を要求しております。というのが、昨年10月の台風19号による河川氾濫が全国で相次ぎました。これを受けまして、令和2年度より国において、補足説明にもありましたように緊急浚渫推進事業債、充当率100%、交付税措置が70%、発行が可能となる特例措置が今後5年間創設されました。長門市においても多くの要望河川を抱える中で、どうやってこの5年間で全て対応していくかというのをただ今5箇年計画を策定中であります。ただ、申し上げられます令和2年度の代表的な河川については過去

に浸水被害のあったもの。旧三隅地区の向開作川、二条窪川、及び長門市の板持川。この3河川が代表的な対象河川になります。その後の4カ年につきましてもただ今いろんな評価項目を上げて策定中でございます。予算の見える化と言いますか、透明化と言いますか、そちらの方を計画的に浚渫作業を進めてまいりたいと思います。

早川委員 この5年間、この国の交付金を使って事業をされて、大体の——よく議会報告会に行っても浚渫のことを特に言われるんですけども、度々いろんなところで言われるんですけども、この5年間、この事業で大体の主だったところは浚渫と言うか、対応できるんでしょうか。そのあとは小さい、少しずつ、さっき言われたように更新していくと言うか、小さいところを作業していくような、大きなお金が出なくて済むような形になるんですかね。

波多野都市建設課長 出水状況にもよりますけども、長門市の管理する準用河川が平成22年度におきまして県の砂防河川が市の管理に下りまして、従来の56河川から3倍になりました。そちらの砂防河川が今まで手付かずになっておりました関係で、これだけの積み残しがあったわけなんですけれども、今後5年間ではそちらの方が改修される予定になっております。

重廣委員 今の説明で、今回は1,200万円ですよ。国の充当率が70パーセントという説明がございました。それで1,200万円から来年は5,000万円、その次は1億円とか、この5年間で全てやろうとしたら、どこから、金額が上がるという可能性がありますか。それとも今この程度の金額を5年間続けていく、その計画なのか。どちらの計画でおられるか伺いたいと思います。

波多野都市建設課長 今抱えております要望の残りを全て単年度で浚渫した場合は、概算でございますけれども5,680万円。5箇年、1,200万円ですと6,000万円になりますけれども、今の予定でありますと令和2、3、4の3箇年が1,200万円、令和5年、6年で1,000万円クラスに減っていく予定でございます。あくまでも計画上なんですけれども、以上です。

重廣委員 予算書243ページ、説明資料26ページの一番下でございます。通学路安全対策事業のこれにつきまして、これが全体計画として来年度からということになっておりますよね。何箇年計画で考えておられるのか、まず伺いたいと思います。

早川建設部長 この区画線等についてはエンドレスなところもありまして、交通量が多いところでは一般的には10年と言われておりますけれども、交通量の多いところではそれに到達する前に消えたりもしますので、これについては財政が許せばずっと、こういう予算を要求しながら区画線の設置については続けてまいりたいと思っております。

重廣委員 先ほど、児童、生徒、園児、様々な子どもさん達が通う通学路とい

うふうな判断をしたわけですが、この金額ですよ。4,800メートルで400万円、これが今、当然10年すると10年前のはもう消えてしまいますよね。今エンドレスというふうに言われましたけれども、この金額は大体毎年400万円程度を見込んでいると判断してもよろしいですか。

波多野都市建設課長 この度の4,800メートルなんですけれども、一応、長門地区、三隅地区、日置地区、油谷地区のそれぞれ調査いたしました。宗頭保育園とか日置の南地区、それぞれ調査した結果、総延長的にはかなりのボリュームです。従来の区画線は道路橋梁維持費で対応しておりましたが、それではちょっと間に合わないの、今回個別に通学路安全対策として計上させていただいております。金額も毎年要求させていただこうと思っております。

重廣委員 毎年要求されるのは当然でございますけれども、金額はガクっとある年で増えたり——今10年程度の計画と言われましたけど、毎年この400万円程度なのか、今年は重要と考えたから長くするから金額を上げるとか、そういう年もあるのか、今の段階で分かれば教えてくれということです。

早川建設部長 400万円で今のところは毎年要求したいと考えております。

重村委員長 関連はございませんか。ないようでしたら、その他の質疑をお願いします。（「なし」と呼ぶ者あり）ご質疑もないので、質疑を終わります。以上で、都市建設課所管の審査を終了します。それでは、都市建設課の関係の執行部のみなさんは退席をいただいて構いません。

次に、建築住宅課所管について審査を行います。執行部の補足説明がありましたらお願いします。

早川建設部長 それでは、建築住宅課所管事業の補足説明をいたします。第8款「土木費」、6項「住宅費」になりますが、予算書では252ページから257ページ、当初予算説明資料は28ページになります。予算額は、1億7,023万9,000円となり、対前年度と比較して、率にして19.4パーセント、2,766万6,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、当初予算説明資料の28ページでご説明いたしますと、健幸住宅推進事業の健幸住宅推進事業費補助金の拡充や、住宅管理費において、市営住宅の24時間換気設備の設置及び内装改修事業に新規事業として着手することによるもので、市営住宅を含めた本市全般にわたる住環境の整備を進めてまいります。なお、当該事業につきましては、当初予算説明資料28ページにおいて、新規事業である旨の記載がございませんでしたので、訂正してお詫びを申し上げます。補足説明は、以上でございます。

重村委員長 補足説明は終わりましたので、これより質疑を行います。ご質疑はありませんか。

重廣委員 それでは予算書の255ページ、説明資料の28ページでございます。

「空き家対策事業」、空き家除去補助として600万円ほど計上されております。昨年も確か少しあったんじゃないかと記憶しておりますが、金額は覚えており

ません。この実績と 600 万円に対する見込み、分かりましたら伺いたいと思います。

梶山建築住宅課長 空き家対策事業の実績でございますが、令和元年度においては 7 件、補助金でいきますと 581 万 5,000 円。予算額は 600 万円ですかね、予算額 600 万円に対して 581 万 5,000 円の支出をしてきたところでございます。

重廣委員 今実績ですよ。すいません、見込みも。もし今の段階で分かればお願いします。

梶山建築住宅課長 一応予算額を来年度の補助金ベースでいきますと、100 万円かける 6 件の 600 万円ほど前年同様の金額を要求させていただいております。この 600 万円のうち、見込み、申請が今現在何件あるかということでございますが、今現在はお聞きはしておりません。ただ、前年並みの 6 件ないし 7 件程度の除却について、また、固定資産税の納税通知書と一緒にチラシ等を配布しまして、今準備をしていますけれども、所有者全員に周知をしていくことで危険空き家の除却に繋がっていくものというふうに考えております。

重廣委員 これは補助金でございます。今 600 万円当初予算に計上されております。申請の件数が多ければ補正等で調整して増やすということをお考えかどうか。それか、もう 600 万円ですのもう今年はありません、来年にしてくださいとかそういう補助金ほかにもたくさんあるんですけど、そういうふうになれるのか、やり方ですよ。それについて説明願います。

梶山建築住宅課長 我々行政マンで一番考えなければいけないことは、公平・公正でなければいけないという見地からいきますと、たとえば 4 月に申請をし、10 月段階で予算がないということは防がなければいけないというふうに考えております。従いまして、当初で 6 件 600 万円ほど計上しておりますけれども、これが更に 10 件とかそういった増加があつて、たとえば予算額がオーバーするようであれば補正で対応していかなければならないというふうには考えております。

南野委員 先月ですか、田屋地区におきまして行政代執行されましたけど、今市のほうで市内におきまして危険空き家は何件くらい把握されていますかね。分かれば教えていただければと思います。

梶山建築住宅課長 平成 28 年に空き家の実態調査なるものを実施しております。その中でランクが A,B,C,D,E と 5 段階あるわけです。A はもうそのままだでも今使える住宅。今委員からご質問の危険空き家となりますと、D,E。この 2 つになります。この 2 つを合わせたものが 200 軒。ですから市内でいくと 28 年の実態調査で 200 軒となっております。その後、空き家の解体補助を 27 年からで申し訳ないんですけども、27 年度から令和元年度の 4 年間でトータルしまして 14 件ほど支出をして解体をされております。それ以外にも所得制限が 250 万円と

いうものがございますので、250万円以上所得がある方においては補助対象とはなりません。危険空き家であっても。そういったものも解体を順次されているというものも見受けられますけども、実際に200軒のうちで、じゃあ何件今残っているかという調査が、整理ができていないところが今実態でございます。これらについては今後、たとえば空き家リサイクル法に基づいて届出があったりしたものをきちんと整理しながら、また、現場で出向いたときに調査をするなりしながら実態の解明というものを早急にしていかなければならない。これが大きな課題だろうというふうに考えております。

南野委員 そしたら来年度も、今年度も行政代執行されましたけど、その可能性も来年度も、行政代執行に至るようなケースが地権者とも連絡がとりつかなかった場合とか、そういうこともあり得るということは十分に考えられるのかお尋ねします。

梶山建築住宅課長 今年度略式代執行を1件ほど実施しました。本市で初でございます。来年度の予算要求、当初予算の中に略式代執行の経費は計上しておりません。と申しますのも、まず空家対策協議会で特定空家、略式代執行を実施するにあたっては特定空家に認定しなければなりません。現在特定空家に認定したものはございませぬ。特定空家に認定したのちに、たとえば所有者不在でも最低3ヶ月くらいかかるんですね。その認定したあとからでも。調査とかいろいろ戸籍とか、県内のみならず全国、場合によっては海外というケースもあろうかと思えます。ですから、そういった戸籍を調査するのに非常に時間がかかっている、費やしているということをご理解いただきたい。それらは分かって管理者不在ということであれば、当然特定空家に認定し、略式代執行に向けて進めていきたいというふうには考えております。

早川委員 予算書257ページ、説明資料28ページの「住宅管理費」なんですけれども、この換気扇設備設置というのは、市営住宅全戸にやられる予定なのか、それともある程度特定のところだけやられるのか。

梶山建築住宅課長 換気設備が今ついているのは田屋床市営住宅については換気設備が設置しております。それ以外の住宅につきましては令和元年度から5ヶ年に渡って全ての住宅において設置予定としております。

早川委員 これって今住んでいらっしゃる方も当然いらっしゃるわけですよ。その方たちにどういう、サゼッションとかこうやっていきますよというのを行政のほうからいついつやりますという形でやられるんですかね。それともお互いにいついつやってくださいという形で。

梶山建築住宅課長 5ヶ年計画、当然換気扇、昨年の6月定例ですか、林哲也議員から質問がありまして、カビ対策というものに質問がなされたと思うんです。これらを受けまして実態調査をしまして、市営住宅の半分5割でカビが発生し

ているという答弁をさせていただいたかと思っております。これらを含めて実際に調査をし、設備がやっぱりないところについては換気設備をつけなければいけないということを前大西市長も答弁をしております。これらを踏まえて5ヶ年計画というものを策定、きちんとした仰々しい計画ではなくて、予算上の計画を建築住宅課の中で策定をしております。この中で令和2年度につきましては、長門地区の小浜、上川西、三隅の殿村新開、合わせて124戸。仙崎のA棟につきましては外壁改修を予定しておりますので、外壁改修の中で換気扇を設置していきます。ですから、トータルでは134戸にはなりますけれども、これを令和2年度に今予定をしております。どういうプロセスで入居者に説明していくかということなのですが、予算が通りました、設計もします、工事にかかる前には市営住宅管理人を通して説明もするし、管理人が不在なところにつきましては貼り紙等を持って事前に周知をしていきます。

早川委員 この工事って1戸1戸ではなくて、その棟全体を換気するというかたちでしょうか。それとも1軒1軒個別につけていくというかたちなんですか。

梶山建築住宅課長 設備そのものは部屋ごとに、設備を吸気口と排気口、当然換気ですから空気を吸う穴がないと出ていきませんので、吸排気を部屋ごとに設置します。棟、部屋が例えば仙崎A棟であれば、10棟ありますけれども、10棟全て設備を行って棟ごとで仕上げていきます。そういうかたちで今計画しています。

早川委員 たとえばこの1棟だったら、その規模によって違うと思うんですけど、どれくらいの期間かかるんですか。1棟の換気設備を付けるのに。

梶山建築住宅課長 工事期間のお話であろうかと思えますけれども、業者の段取りにもよろうかと思えますけど、だいたい1棟で2カ月程度、60日から90日程度。戸数にもよりますよ。当然入居者が10戸であれば2カ月もかからないケースがあろうかと思えますけど、設計上の工期とすれば2カ月程度かかるであろうというふうには見込んでおります。

早川委員 この事業に関しては反対云々ではなくて大賛成なんですけど、住んでいる方はその2か月間、普通に住むことができるんですかね。

梶山建築住宅課長 工事をするのは、メインは壁に穴をあける。エアコンの穴をあけますよね。その穴をあけるのが一番時間がかかるわけであって、実質2カ月と言いながらもその部屋ごとに仕上げていきますから、1部屋でいくと2日から3日程度というふうにご理解いただければと思います。したがって、入居者にそれほど負担感というものはないであろう。今年度仙崎のB棟、8棟ほど実施しましたけれども、入居者からはそんなに大きな苦情等もなかったし、今年度実施した方法で改修していくことによって大きなトラブルもないというふうには考えております。

重廣委員 予算書の 255 ページ、説明書の 28 ページ、今のページの中段部分にございます。健幸住宅推進事業、これにつきまして伺いたいと思います。まず先ほどこれ補助金でございますから課長は公正、公平にと言われました。令和元年ですよね、業者さんから少し聞いたのですが、これは 4 月半ばくらいからの補助制度でございまして、1 年間あることを見越しておったんですが、連休明け、5 月半ば頃に来ると、もう補助金はすべてなくなっていたという話を聞きました。そして調べてみますと、1 つの業者がたくさん抱え込んだという話もちらっと聞きましたが、この業者に平等に分配する、と言いましょか、市民の皆さんが平等にこの制度を使えたら一番いいんですが、1 つの業者がすべて、ぱっとまとまって取ってしまうとほかの業者もあると思っても、例えば 10 月頃からの申請に来た時にもすべて 6 月前にはなくなっているというふうな状況があったようでございますが、その制度の仕組みについてどのように今年はお考えおられるのか伺いたいと思います。

梶山建築住宅課長 ただ今重廣委員からご指摘を受けましたように、令和元年度の補助金につきましては 5 月 28 日、受付が終了しました。業者によってやっぱり補助金がなくなるということで、工事を実際に申請をされて着手をするまでに数か月間、場合によっては 5 か月くらい置かれていたケースもございました。これらを踏まえまして、令和 2 年度につきましては例えば補助金の交付決定を 1 か月もしくは 2 か月以内に着工する事とか、その辺の対策というものを検討しています。それが 1 か月がいいのか 2 か月がいいのかというのは今難しいところではございますけども、交付決定後速やかに工事にかかるようなかたちで対策を取っていかねばならないというふうには考えております。で、今年度につきましては、補助金も 500 万円ほどアップさせていただいております。予算書を見ていただければ分かるんですが、1,450 万円、補助金が。前年度 950 万円ですから、500 万円ほどアップしています。この 500 万円で令和元年度は 5 月 28 日に募集が締め切ったものがどこまで引っ張る、どこまで伸びることができるかということは非常に難しいところではございますけども、この事業につきましては先ほど公平、公正というお話もさせていただきましたけれども、募集時から予算の範囲内というかたちで募集しております。従いまして、補助金がなくなった段階で締切というかたちで対応していることはご理解いただきたいと思います。

重廣委員 申請をひと月もしくはふた月の着工を今検討しているというふうに言われました。ぜひ実現していただきたいと思います。それで、この丸の 3 つ目。効果検証事業謝礼と書いてありますが、これ昨年もございましたか。

梶山建築住宅課長 令和元年度の調査検証を 2 月の 21 日、22 日、つい先日になりますけども、説明会を開催したところでございます。この事業そのものは

健幸百寿プロジェクトと連携を図りながら慶応大学の伊香賀教授、今（がくえき）連携もあるんですけども、伊香賀教授の協力を得ながら実施をしております。従って、この中で慶応義塾大学の方から謝礼として参加者、調査協力に協力をいただいた方に謝礼が支払われております。ですから、長門市からの予算計上はございません。ただ、2年度につきましてはやはり長門市の事業ということで、長門市の方で予算要求をさせていただいております。1万円かける40件で40万円。この40万円が調査協力者謝礼というかたちで要求をさせていただいております。

重廣委員 ということは調査協力者、利用された方の感想を聞くという考え方ですか、それとも令和元年度分は2月にどこかの教授をふまえて話をしたという話でしたよね。今年に関しては1万円かける40何件ですか、今言われましたけど、件数に対してこの補助事業がどうであったのかという感想をいただいてそれをまとめるという考え方、それとも検証事業という事業内容がはっきり分からないですけど説明をお願いします。

梶山建築住宅課長 まずこの検証事業の内容でございますけど、部屋の室温を測定します。要は改修することによって血圧とか健康にどのような関係があるのかということを検証していくわけです。従って、室温を測ったり日々の入浴時の体温を測ったり、血圧を測ったり、そうしたデータを蓄積して伊香賀教授の方で分析をしていただく、分析をしていただいて要は断熱効果がある住まいに住むことによって血圧の変動が少なくなるとか、そういったものを最終的には取りまとめていただくようになるかと思えます。そのデータ収集ということでご理解いただければと思います。

重廣委員 内容はよく分かりました。ただ、今の内容でありますと、建築住宅課と健康増進課の横の連携をとってやられた方がいいのではないのかなというふうには説明で私は感じたわけですが、そのあたりはどのように見解をお持ちですか。

梶山建築住宅課長 今年度の事業もそうなんですけれども、百寿プロジェクトということで健康増進課を含めて様々な関係各課がそのプロジェクトの中にメンバーとして入っておりますので、もちろん横の連携というものはしっかりと図っていく、対応しているところでございます。

早川委員 この1万円かける40件と、「人数」ではなくて「件」なんでかね。1件に1万円、1件に1人という形なんですか。

梶山建築住宅課長 先ほど言いました補助金でいくと、上限50万円の29件で1,450万円という説明をさせていただいたかと思っております。29件と40件ということで差異が生じております、報償費と補助金との。ただこれは、上限が50万円ということですから、30万円の方もいらっしゃるということで、報償

費については40件ということで、1世帯というふうにご理解をいただければと思います。

早川委員 これは先ほどの説明では、令和元年度は慶應義塾大学の方がこの費用を持たれたと、令和2年度は長門市が持つと。これは令和2年で終わるんですか。それともずっと続いていくのでしょうか。そして負担はずっと交互と言うか、ずっとこれから検証は何年ぐらいまでやられてというところをちょっと教えてください。

梶山建築住宅課長 本来であれば令和元年度も長門市が持つべきものでございますけれども、予算が無かったということで、慶応大学の方が出していただいたということでご理解いただきたいと。ただ、令和2年度以降につきましては勿論、長門市の事業ですから長門市が出していかなければならないし、いつまで続くかと言え、この事業がある限りはやはりある程度一定の成果——伊加賀教授が言われることには、最低10年くらいのデータは欲しいねということは言われております。ですから私たちもできるだけ調査を高くすることによって、より精度の高いデータが収集できるし、またその結果をより精度の高い結果が出ていくものというふうには考えております。

早川委員 この結果を例えば10年取られて、5年でも10年でも取られて、この結果はどこに発揮させられるんですかね。どういったところにデータを取りました、良かったね、ではないですよ。

梶山建築住宅課長 先ほど重廣委員もおっしゃいましたように、当然そこについては百寿プロジェクト、長門市については健康寿命、今年度も県下13位で13番目と、最も低い位置であったということはお聞きしています。ですから、長門市の健康寿命を高めるために出た結果というものは百寿プロジェクトを通じて、また市民の皆さんにも公表していかなければならないというふうには考えております。

重村委員長 関連はございますか。（「なし」と呼ぶ者あり）ないようでしたら、その他質疑をお願いいたします。（「なし」と呼ぶ者あり）ご質疑もないので、質疑を終わります。以上で、建築住宅課所管の審査を終了します。

ここで説明員入れ替えのため暫時休憩します。再開は10時35分からとします。

— 休憩 10:25 —

— 再開 10:35 —

重村委員長 休憩前に引き続き会議を始めます。教育委員会所管の審査に入ります前に、令和2年度の教育委員会重点施策等の概要について、教育長からご

発言を願います。

松浦教育長 令和 2 年度教育委員会の重点施策の概要につきまして、ご説明申し上げます。重点施策の実施にあたりましては、第 2 期長門市教育振興基本計画の基本理念であります「生涯を通じて自らを磨き、ともに高め、『知』を育む」教育を中心に据え、諸施策を推進してまいります。はじめに、教育環境の整備におきましては、Society 5.0 時代を生きる子どもたちの未来を見据え、児童・生徒に 1 人 1 台の学習用端末と高速大容量通信ネットワーク環境を一体的に整備する「GIGA スクール構想」を計画的に進めるとともに、小学校におけるプログラミング教育の開始に伴い、ロボットの貸与や支援員の派遣を行うほか、指導用デジタル教科書の配備を進めるなど、ICT を活用した教育の充実に努めます。また、児童・生徒が一日の大半を過ごす学校施設の老朽化が進む中、「学校施設長寿命化計画」に基づき、施設の計画的な整備・改修に取り組みます。このほか、学校給食事業の効率的な運営と経費削減を図るため、長門市学校給食センターの調理業務について、令和 3 年度からの民間委託に向けた取組を進めます。次に、学校教育では、「ながとに学び、未来に生きる」教育を基本方針とし、知・徳・体の調和がとれた「生きる力」を育む教育を推進します。そのため、コミュニティ・スクールや地域協育ネット、小中一貫教育の取組をさらに充実・深化させ、地域総がかりの教育を推進して、子どもたちが未来を生き抜く力を育てます。学校では、授業を充実させ、基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現力等の「確かな学力」を育てるとともに、ふるさとの童謡詩人金子みすゞさんの優しいまなざしと感性を基調とした「心の教育」を充実させ豊かな心を育成します。併せて、家庭や地域とともに、望ましい生活習慣や運動習慣への改善を図る取組を推進し、未来をたくましく生き抜くために必要な健康の保持増進と体力の向上を図ります。次に、生涯学習及びスポーツ振興では、長門市生涯学習推進計画や長門市スポーツ推進計画に基づき、「市民の学習機会の確保・充実・支援」や「生涯スポーツの普及」などの諸事業を総合的かつ計画的に推進し、「いつでもどこでも学べる機会の充実」に努めるとともに、家庭と地域、学校との協働の取組により連携を強化し、地域教育力の向上に努めます。また、「次世代への地域文化の継承」では、市内に点在する歴史的資料を分かりやすく紹介し発信する拠点施設として、現在の「ながと歴史民俗資料室」をリニューアルするための基本設計及び実施設計を行います。これら施策の実施にあたりましては、子どもの目線を大切にしながら、あらゆる活動の中心に子どもたちを据え、子どもたちがふるさと長門を愛し、地域を支える人財として育てられるよう、本市の恵まれた教育資源を活用した「長門らしい教育」を展開してまいりたいと考えております。

重村委員長 それでは、教育総務課及び学校教育課所管について、審査を行い

ます。執行部の補足説明がありましたらお願いします。

中谷教育部長 教育総務課及び学校教育課所管につきましては、ただいま教育長が申しあげました重点施策の概要のほか、予算説明書及び予算説明資料に記載のとおりであり、特に補足することはございません。

重村委員長 補足説明はないようですので、これより質疑を行います。ご質疑はありませんか。

早川委員 予算書 269 ページ、説明資料は 30 ページの「教育振興費 補助教員設置事業」なんですけれども、これ昨年よりは金額は上がっています。ただ、聞いたところによると、これは任用職員制度の分が上がって、人数と週 344 時間というのは変わらないということなんですけれども、これに関しては去年支援する授業数を増やされて今年は増やすという考えはなかったのでしょうか。

伊藤学校教育課長 学校のそれぞれの学級の実態に鑑みて配置を決めてまいりますけれども、8月に通常の学級にいる子ども、それから特別支援学級にいる子どもを含めた調査を行いまして、子どもの実態調査、学校からの報告を受けます。これをもとに我々学校教育課指導主事が各学校を頻繁に訪問いたしまして、その報告に基づいて実態はどうであるかということを確認していく。また、どうしてもこの時期、35人というのが山口県、通常学級の定員になっておりますけれども、1名足らずとか1名増えたりということで、35人ギリギリの人数になったりとか、これは大変だなという状況が生まれたりします。そういった実態も鑑みて判断した結果、現状のままやっていけるといって判断して、現状のままというか、昨年度増やさせていただきましたので、この状況で今やれるという判断をいたしました。

早川委員 今後、また令和2年度8月になりまして、これ今上げられていますけれども、やはりちょっとある学級では手が回らないところになったら、またちょっと人を頼むということはある事業なんですかね、これは。

伊藤学校教育課長 年度途中もなかなか増やすということは難しいのでございますけれども、来年度に向けてのまたしっかりと確認をして把握をしていくということになろうと思います。年度途中であります場合には、この補助教員だけではなく、学校体制の中でシフトを組んで対応する等の取り組みもしておりますので、またそれから県雇用の非常勤等もございますので、そちらと合わせて今全面的に子どもたちにより良い学習が成立するように支援していくものでございます。

早川委員 来年度はこれでいけるといところで十分だということなんですか。

伊藤学校教育課長 十分かと言われれば欲しいものはいくらかでも欲しいものです。しかし、そうは言うてはいただけません。出来る努力をしてしっかりとやっ

てまいりたいと思います。

早川委員 十分ではないというところは分かりました。ありがとうございます。

重廣委員 これは「問題や課題を抱える学級を要する学校で支援する」というふうに書いてありますが、必要ない学校というのが小中学校であるんですか。問題を抱える学校がいくら、必要ない学校がいくらというのがあればちょっと聞きたいんですけど。

伊藤学校教育課長 問題のない学校、問題の大小にもよりますし質にもよります。問題のない学校はございません。いろんな問題があります。ただし、この支援、補助教員の配置によって解決がなされるであろうということ、これは今これを配置していない学校も若干ではございますが、あります。ただし、年度年度によって変わります。ですから先ほど申しましたように、調査、それから私どもも実際に現場に入って確認していく、その中での判断ということで必要な学校へは多くということは年度ごとによって変わっております。固定ではございません。

重廣委員 私は問題がある学校はと聞いたのは、配置されている学校とそうでない学校があるのかという意味で聞いたんですけど、毎年毎年変わると今言われましたよね。当初予算の前に、昨年はこちらに 2 名おったけど、こちらはゼロにしてこちらは 3 名とか、そういうふうな配置替えを毎年毎年検討されるという認識で良いんですか。

伊藤学校教育課長 今重廣委員ご指摘のように、毎年毎年現場調査、それから我々の日頃の観察も含めて配置を検討しております。

重廣委員 予算書の 271 ページ、説明資料の 30 ページでございます。ICT 教育推進事業というのがございます。この中にプログラミングロボット、私はこれ見たことがありませんからどうも納得いかない。このプログラミングロボットについて説明願いたいと思います。

伊藤学校教育課長 プログラミングロボット、最初に説明させていただきたいことがあります。プログラミング教育とはロボットを使う教育がプログラミング教育ではないと。パソコンを使う、使わなくてもできる。つまり論理的な思考を養うという考え方です。しかしながら、子どもたちは自分たちで結果として最後にロボットが形として表現できる。これがやはり学習意欲を高めるものでありまして、今年度深川小学校で県の指定を受けて授業を取り組んだわけですが、そのときにもそのロボットも使いました。どんなロボットかと申します。まず、大きさはこのくらい、センサーが光のセンサー、音のセンサー、それからラインセンサー、距離のセンサー等各種配置されておりまして、たとえばコースをビニールテープ等で床に道を作りますと、それをラインセンサーで読んで自分で進んでいきます。また障害物が近づきましたら、それを察知して

止まったり、また暗闇に入ったらライトをつけたりというふうな対応をします。それを全部プログラミングして結果として子どもたちは学習の成果を確かめますけど、なかなかうまくはそういきません。ですからそこをトライアンドエラーで試行錯誤していく。これもプログラミング教育の大きな狙いの一つでありまして、非常に子どもたち、喜んで使っておりますし、今ロボットを実際に貸し出して、県のものなんですけど貸し出して各学校で今それを使っております。値段が1台あたり1万3,000円程度になります。

重廣委員 次に、ICT支援員ということがありますが、これは支援員として学校の先生がされるのか、それともよそから来てされるのか、そのあたりの詳しい説明をお願いします。

伊藤学校教育課長 先日早川議員の一般質問の中でICT支援員の配置を考えていくと。それとは別のものでございます。このプログラミング学習の中の特化した支援員であって、今重廣委員さんがご指摘されたように、これは一般の方でも結構ですが、今回深川小学校で研究発表をやったときに、多くの方々がボランティアで支援をしてくださいました。教員OB等、また子どもの扱いにけっこう慣れた方、そしてしかもICTに興味のある方、そういった方々が複数名ボランティアとして関わってくださいました。そういった方々の支援をぜひ続けたいということで、企業と業務委託をして連れてくるというふうなものでは考えておりません。

早川委員 予算説明書269ページ、説明資料30ページの中学生海外派遣事業なんですけども、今これ新型コロナで右往左往皆さんしているんですけども、一応これはやる方向で考えていらっしゃるということでしょうか。

伊藤学校教育課長 現時点ではやるという方向でありますけれども、ご承知のとおりベトナムにつきましても日本と同様に感染が発生しております。今後の状況を見て、決行するか中止するかということは決定してまいるわけですが、やはり旅行代理店等の委託をしていかなければいけない関係上、例年スタートが4月の中旬でございます。ですから、その時点までに情勢をしっかりと見極めて、また県の国際課等とも相談をしながら可否を決めてまいりたいと考えております。

南野委員 昨年度もこの予算説明書の269ページ、今の関連ですけれども、地元の中学生を基礎から一歩進んだ実践的な英語を学ばすことを目的とありまして、昨年度も地元の市内の中学生をベトナムの大学の方で講義をされたと聞いておりますが、はたして10日足らずの7泊9日です。それで地元の中学生に向こうの、ベトナムの方の大学の方で講義を受けて、どのような効果があったのか、実際に派遣された方々からどのような感想があったのか、具体的に分かれば教えていただければと思います。

佐藤学校教育課主幹 子どもたちは約10日間ですけども、東部国際大学というところで英語の講習を受けます。ネイティブな先生方の講義によってこれまで中学校で培ってきた基礎的、基本的な英語がどれだけ実際使うことができるのかというあたりが、少人数ではありますが、かなり実践できたのではないかなというふうに、横で見ている感じがしましたし、子どもたちも今までどちらかというと初め消極的であった子どもたちがまわりの大学生にちょっと自分から話しかけたりとか、最終日に地元の中学生との交流会を催すのですが、その際にも自分の方から積極的に英語で話しかけたりする姿が見えました。こういうところから、実際には中心となるのは英語の語学力の獲得なんですけども、それ以外の部分で、積極的に話しかけるであるとか、海外の子どもたちとふれあうであるとか、そういったところの付随した様々な学習をすることができたのではないかなというふうに感じております。帰国してからも学校での文化祭での発表であるとか、あと英語の弁論大会に積極的に参加するであるとか、英検にチャレンジしてみるであるとかそういったことは多々聞いておりますので、語学学習ももちろんですけど、それ以外の部分で非常に成果が上がっている事業であると考えております。

南野委員 来年度、2年度は一応ベトナムの方に派遣される予定であると思われませんが、今後3年度以降、この事業を続けていかれるのであれば派遣先をまた別の国に変えてみたいという検討の余地はあるのかお伺いします。

伊藤学校教育課長 委員ご承知のようにこの事業につきましてはカナダを派遣先にしておりました。その後一年間だけアメリカ、そしてベトナム、このベトナムというのが今山口県が非常に提携をしておることと、地元企業があったり、山口県人会が関わってくれたり、そういう体制が取れる。アメリカとカナダにつきましては、従来やっておりましたのが、大学の寮、ホテルのようなきれいな寮にずっとおって、費用も非常に高く2名しか派遣できなかったということもありまして、各校から1名は絶対に連れて行きたいねというような経費的な部分、それから経済発展、それから日本人がたくさんいて現地等、英語以外の交流も学べるということからしてベトナムというのを今実現できたばかりでありまして、現在のところ継続をしたいというふうには考えております。

重廣委員 予算書の275ページ、説明資料の30ページでございます。これ31ページにあります中学校パソコンも一緒なんですけど、この内容の中に児童生徒の個人情報等セキュリティの問題でサーバーを移すというふうに私は読み取りました。現状で各学校にサーバーが置いてあるという話なんですけど、各学校にあることによって今まで個人情報がどうこうなったという問題があるわけですか。それとなぜ1カ所に集約されるのか、それについて伺いたいと思います。

松崎教育総務課長 現在各学校の校務用サーバーにつきましては、ほとんどが

コンピューター教室へ設置をし、データ管理やウイルス対策等を行っております。今までそういったトラブルという部分があったのかというと、現在まではございませんでした。ただ、今後校務用サーバーを各学校で管理することはサーバーの盗難、損傷等のリスクが大きくなる可能性がありますので、また、現校務用サーバーにつきましてはOSのバージョンが老朽化しておりますので、現在文科省が進めております児童生徒の個人情報の重要な情報資産についてはセキュリティ要件を満たした教育委員会一括の一元的な管理が必要ということを示してしておりますので、この度センターサーバー化に整備することになりました。

重廣委員 今まではセキュリティに関して弱かったと認識ですか。それと新しくして、国もこういうふうにしなさいということで、お金をかけて一つにまとめるという事業であります。これにしたことにより、どういう利点があるというふうに考えておられるわけですか。わりと金額的には安いものではございません。そのあたりの判断をお願いします。

松崎教育総務課長 先ほど申しましたように、今後やはりサーバー等の損傷等を考えれば児童生徒の個人情報、成績等のそういった部分については教育委員会で一元管理をする必要があるということで、今回教育委員会においてセンターサーバー化を整備するという方向で予算を計上しました。

重廣委員 無性に先ほどから説明の中で盗難という言葉が出るんですね。盗難に遭われたことはおそくないと思うんですが、この一つに集めることによって盗難は確実に100%ないというふうに言いきれないわけですね。

松崎教育総務課長 今センターサーバー化にする設置箇所につきましては市役所4階の情報推進係のセキュリティが整備された部屋に設置するように今計画をしております。

重廣委員 しつこいようですが、市役所にあるから大丈夫、各学校にあるから不安であるという認識はちょっと私は分からなくて、小学校、中学校等セキュリティがしっかりしていると思います。この金額をかけるのであれば、そのセキュリティについてどうにかするという考えはなかったんですか。このサーバーは新しく変えようという発想だけだったのか、学校自体のセキュリティをどうにかしようという発想はなかったのかどうかを伺います。

松崎教育総務課長 今サーバーにつきましては、この校務用サーバーにつきましてはコンピューター教室の方に設置しております。これについてはやはり児童生徒の出入りが自由でありますので、ただ施錠については下校時に先生方が施錠するようになりますけど、昼間の管理を含め、そのあたりをしっかりとしていくということで、この教育委員会、本庁でのサーバー設置に決定をしたところでございます。

重村委員長 ほかにご質疑もないので、質疑を終わります。以上で、教育総務課及び学校教育課所管の審査を終了します。ここで説明員入れ替えのため暫時休憩します。委員は、自席で待機願います。

— 休憩 11:02 —

— 再開 11:03 —

重村委員長 休憩前に引き続き会議を始めます。次に、生涯学習スポーツ振興課所管について、審査を行います。執行部の補足説明がありましたらお願いします。

中谷教育部長 生涯学習スポーツ振興課所管につきましては、先ほど教育長が申しあげました重点施策の概要のほか、予算説明書及び予算説明資料に記載のとおりであり、特に補足することはございません。

重村委員長 補足説明はないようですので、これより質疑を行います。ご質疑はありますか。

長尾委員 説明資料の32ページ、歴史民俗資料室の整備の関係でございしますが、今この歴史民俗資料室は必要という趣旨はよく分かるんですけども、現在建物が60年ですかね、確か経過しておるということで、かなり見た目にも老朽化しておると思うんですけど、この改修をして大丈夫かどうか。強度とかいろいろなことが。特に経過60年も経っているということで、そのへんをどういう見解を持っているかお伺いしたいんですけど。

中谷教育部長 先日の岩藤議員の一般質問の際も同じような質問がございましたが、今長尾委員ご案内のとおり、旧教育委員会庁舎につきましては、昭和36年に建設されたもので60年近く経過しております。そうしたことで今年度、耐震診断を行っております。その結果が、2階部分につきましては所定の耐震性能を保有しておりました。しかしながら、1階部分において若干耐震性能が不足しておりました。元々この建物は中国電力の営業所として建てられたもので、構造的にはしっかりしております。そうしたことで、耐震補強工事のほうもさほど経費のかからなく安価で施工できるということであり、これからも十分使っていける施設というふうに判断しております。

長尾委員 前にもどなたか一般質問か何かで、割と今言われたように中電の建物でということでしたら、しっかりしておるということをおっしゃっております。ただ、こういうものについては、今度は基本設計と実施設計を行うということで、もちろんそういういろいろな検査をされるとは思いますけど、とにかく、あとからお金がズルズルズルズル出るというような、そういう方向が見受けられるので、ここでその点をきちんと正しておこうということで質問をさせていただきましたが、

改めて一つまたお願いします。

中谷教育部長 耐震補強工事に係る予算的なものですが、今年度の耐震診断の結果であれば 500 万円程度でできるというふうに調査結果が出ております。そしてまた、これから古くなった施設を現在の基準に合わせてリニューアルするようになりますので、そうした経費は若干かかるとは思いますが、十分将来に向かって使えるんじゃないかということで担当のほうでは思っております。

早川委員 この歴史民俗資料室の基本実施設計業務が来年度行われるんですけども、これ資料室の使用、使い方によって設計等も変わってくると思うんですけども、ここに今いただいた重要施策等の概要説明の中でも一番下に子ども目線を大切にしながらとか、この説明の中でも子ども文化を継承するとか学習施設として使うということが上げられていますけれども、そのような設計の要望はされているのでしょうか。そういう使い方ができる部屋とか、たとえば高齢者が使うときにはエレベーターとかがあるとか、使いやすくなっているとかという設計の考えはこの中に伝わっているというか入っているのでしょうか。

大嶧生涯学習スポーツ振興課長補佐 今言われましたように、子どもたちの学習のための施設という部分でも捉えておりますので、今考えておりますのが、2階に民具体験という、子どもたちが社会科の授業で来館いただいて、実際に民具等を触っていただけるようなスペース等は考えております。それと、生涯学習ではないんですけども、高齢者の方や歴史家の方が新しい資料館に来ていただいて学習していただくとか、こちらがいろいろ調べていただいたりとか、そういうスペースとしてレクチャールームというものも 2階に設けるようにはしております。

早川委員 エレベーターとか。

大嶧生涯学習スポーツ振興課長補佐 エレベーターにつきましては、ご意見もいただいておりますけども、限られた財源の中で、全体の中で最小の経費で最大の効果が上がるように考えていきたいと思っております。もちろんそういった施設、エレベーターは足の不自由な方とか子どもさんには必要とは思っておりますので、基本的にはもちろん 2階でそういったスペースを作る以上設けていきたいなというふうには所管課としては考えております。

早川委員 すいません、もう一つ、エレベーターはお願いしたいと思うのと、あと多目的トイレとか、高齢者が来られるので当然多くの方が来られるところには当然それも必要だと思うんですけど、設計の中でその要望は入っていますか。

大嶧生涯学習スポーツ振興課長補佐 多目的トイレにつきましては、現在 1階に設置しております。ですからその部分について、どこまでの内容に改修するかはまだ今後詰めていかなければなりませんけども、今現状として障害者の

方が使えるようなトイレは一つ設けております。

南野委員 予算書 307 ページの「ウルトラマラソン開催事業」につきまして 1 点だけお尋ねさせていただきたいと思いますが、ご存知のように今コロナが世界中にまん延しておりますけど、この開催事業も残り 3 ヶ月あまりとなりましたけど、市としてどの時点で開催の可否を決断されるのか、だいたい今の時点で、どの時点で考えていらっしゃるかお尋ねしたいと思います。

福田生涯学習スポーツ振興課長 新型コロナウイルス感染症の拡大によりまして、様々な大会が中止をされているというところでございますが、本大会におきまして開催時期が 6 月ということでありますことから、現段階ではいつ頃に可否の判断をするかというのは決めてはいないところです。今後の状況を見ながら判断をさせていただけたらと思っております。

南野委員 これはお願いではございますけど、出場者もおられますから、できれば早い時期に結論を出していただければと。県外から来られる方もたくさんいらっしゃいますので、できれば最大限に早めに結論を出していただければと思っております。

重廣委員 同じく予算書の 307 ページ、説明資料の 33 ページでございますが、「シニアソフトボール古希大会開催事業」これにつきまして少し伺いたいんですが、これは今までも何度もソフトボール協会のほうからお願いに上がって、やっと今年やってくれるかというふうな感じで私は思っております。ただこの大会でございますが、観光課が当然絡んでくるべきものではないかというふうに認識しておるわけですが、観光課との連携について今どのように考えておられるか伺いたいと思います。

福田生涯学習スポーツ振興課長 今の段階では、体育協会が事務局を持っているということになりまして、教育委員会のほうも一緒にやっているところですが、観光課も観光コンベンション、いろいろと一緒にあって、この実行委員会を立ち上げたところでございます。これからは実行委員会のほうで観光課と一緒にあって実施に向けていきたいと思っております。

重廣委員 これ市内であるわけですから、これに向けた会場整備等々はこれに含まれていないですね。当然いろんなグラウンドを使われます。会場が悪いという話は前々から私何度も申し上げておりますが、その会場整備について、どのように今認識しておられるか、またどういう計画でおられるかについて伺いたいと思います。

福田生涯学習スポーツ振興課長 施設の整備ということでございますが、今会場を三隅の総合運動公園と日置の総合運動公園の 2 ヶ所を今予定しております。それによりまして会場整備ということで、それぞれのグラウンドに三隅地区で 100 万円、日置のほうで 150 万円のグラウンド整備の予算を計上しているところ

ろでございます。

重廣委員 その金額というのはこの大会に向けた整備というふうな認識でよろしいですか。

福田生涯学習スポーツ振興課長 この大会に向けての整備ということによろしいというか、そういう形で準備を進めていきたいと思いますが、これによって日頃使われる方も少しは良くなるのではないかとこのところでございます。

長尾委員 説明資料の 33 ページで、オリンピック聖火リレーの開催事業、負担金などですけれども、その開催負担金の 420 万円、この内訳が何か分かるんですかね。

福田生涯学習スポーツ振興課長 山口県の実行委員会のほうが必要経費ということで試算しておりまして、一応県のほうが 2 分の 1、関係市町が 2 分の 1 ということではじかれております。細かい内容は全体でのことになりますのでちょっと不明なんですけど、会場設営とか警備、バスの借上げ、リーフレット作成等に係る負担となっております。

長尾委員 それはここに書いてあるから分かるわけですけどね、とにかくオリンピックという錦の御旗でね、いくら出せとか何とかいろいろ国の施設の整備も、当初のオリンピックを誘致するときには既設の施設を利用するとか、割とみやすいような話だったんですけど、だんだんだんだんこういう事業費ももちろん当初よりはるかに膨らんでおりますよね。だからこういう中で今負担金、420 万円ほどですけど、これはやはり県からポンと、総事業費が 1 億 3,820 万円で、あと市町負担割合がこれだけですと、そういう形で来たんですか。それとももう少し内訳があって、各市町が分かるように納得いくような内訳なんかは来ていないんですか、どうでしょうか。

福田生涯学習スポーツ振興課長 県のほうからは事業収支予算書の案というのをいただいております。その内訳として、交通リレーのコースの設置とか聖火リレーのコースの経費とか、会場の整備の経費とかリーフレットの作成とか、内訳は主なところは来ております。セレブレーションの会場 2 ヶ所なんですけど、そちらのほうはまだ負担は多くなっておるところで、セレブレーション 2 ヶ所開催するところは 323 万円の 2 市がそれ以上に負担しているというふうな現状でございます。

長尾委員 それぞれの自治体の行政規模にもよるでしょうけど、やはりそういうのは当然加味されておるとこのことによろしいんですかね。自治体の規模。だから早く言えば下関と長門は違いますよね。そういうので負担割合はもちろん当然変わっておるものか、その点の考え方はどういう考えでしょうか。

福田生涯学習スポーツ振興課長 自治体の規模というわけで負担割合が決まっているということにはなっておりません。13 市均等に経費がかかる分の 2 分の

1 ということで、13 市同じ形で 420 万円の負担となっております。ただ、6 町と言いますかね、6 つの町に関しては聖火リレーが走らないというところで負担割合は少なくなっております。

長尾委員 そしたら、そういう自治体の財政規模、全体の自治体の人口規模もあるでしょうけど、そうじゃなしに均等で今言われたけど、それは間違いないんでしょういね。

福田生涯学習スポーツ振興課長 山口県の実行委員会の予算書の案では、そういった形で収入は上がっております。ある程度リレーを行うのは距離とかもだいたい同じような形で、同じような看板設置とか想定されるということで均等ということで考えております。

長尾委員 ちょっとしつこいようですが、そしたら 1 億 3,820 万円の参加していない自治体もあるということで 13 市 6 町で 19 の、4 自治体が走っていないということですかいね。そしたら単純に割ったらこうなりますか、この数字に。

福田生涯学習スポーツ振興課長 今の予算案では 6 町、これが 134 万円の 804 万円で、13 市が 420 万円の 5,460 万円で、セレブレーション計画 2 市なんですけど、これが 323 万円の 2 市ということで 646 万円と県の負担金が 6,910 万円ということで合わせて 1 億 3,820 万円というふうな予算となっております。

重廣委員 予算書の 297 ページ公民館費について伺いたいと思います。説明資料には載っておりません。コードナンバー 700 番なんですけど、「公民館施設等維持管理費」これ昨年と比べますと、公民館長費等々いろいろ上がっております。これは私一番下に、宿日直等委託料というのがありまして、これされている方、シルバーさんがおられるんですが、合併以来一切上がっていないというふうな情報を聞いておりまして、このことについての見解を伺いたいと思います。

福田生涯学習スポーツ振興課長 公民館等の宿日直等の単価につきましては、シルバー人材センターからの単価見積もりに基づいてシルバー人材センターと業務委託契約を締結しているところでございます。平成 30 年度に年末の 31 日と 3 が日の 1 日、2 日、3 日の 4 日間に関しては単価の見直しを行い、通常の 1.2 倍としたところでございます。宿日直業務は公民館だけではございませんので、単価の見直し等につきましては市とシルバー人材センターとの協議になるかと考えているところでございます。

重廣委員 私どもも意見交換会をさせていただきまして、いろいろ経営的にも厳しいところがあるようでございます。ぜひご検討をよろしくお願ひしたいと思ひます。答弁いりません。

重村委員長 ほかにご質疑もないので質疑を終わります。以上で、生涯学習スポーツ振興課所管の審査を終了します。以上で、本分科会に分担された議案の

審査は終了しました。これで、予算決算常任委員会文教産業分科会を閉会します。どなたもご苦労様でした。

— 閉会 11:25 —